

事業活動実績報告書

施設名	水元八千代幼稚園
教育理念	義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児の健やかな成長のために環境を整え、心身の発達を助長する。

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	わくわくスピードチャレンジクラブ
2 実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 毎週月曜日、期間中40回の実施(うち4回は保育時間中に全園児実施)希望者のみのクラブ制。 ①ラダートレーニング: はしご型のトレーニング用具を使用した運動。 子ども達で規則を作り、その規則通りに前に進む。 ②マーカ-の使用: 地面に印をつけることでそれを起点にけんけんぱをしたり飛び越えたり変化の起点となる ③ミニコーンの使用: ミニコーンを目標にタッチしたり、コーンの周り回って折り返すなど動きに変化をつける。 ④ミニハードルの使用: ハードルをジャンプして飛び越える運動。 また、フラフープ等の障害物を地面に置き、子ども達が自由にコースを作る。 ⑤上記①～④を組み合わせ、様々な条件を付けて多様な動きを体験する。	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 全園児の参加は、時間を分けて 12/16・1/20・2/17・3/3に実施。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

効果検証報告書

施 設 名	水元八千代幼稚園
教 育 理 念	義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児の健やかな成長のために環境を整え、心身の発達を助長する。

事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	わくわくスピードチャレンジクラブ
2 事業概要	スピードトレーニング専門講師による指導を通じて、楽しみながら体力向上、体幹強化だけでなく他者を思いやる気持ちや自ら考えて取り組む姿勢を養う

計 画 時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 サッカークラブ指導者およびスピードトレーニング教室を主宰している平沼恭史郎氏を講師として招く。 月曜日 年中・年長・小学生クラス
	事業後 3についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果)講師の指導経験の積み重ねや人柄もあり、園児たちが運動だけではなく、講師との会話も楽しんでいるのがうかがえた。他者とのかわり方を学ぶ良い機会になったのではないかな。 (改善点)講師1名での対応が大変そうだったので、今後、参加者が増えてくることを想定すると、補助する方と複数名での体制を検討する必要がある。

計 画 時	4 事業のねらい	運動の中に遊びを取り入れることで、楽しみながら多様な動きを経験し、また、自ら試行錯誤し、達成感とともに体を動かす楽しさを味わうことにより自らの体を大切にしようとする気持ちを育てる。
	事業後 4についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果)参加園児は、徐々に難しくなる動きに苦労しながらも、できるようになるために積極的に練習していた。

5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 実施は月曜日、年間36回。(保育中は月に1回) ①ラダートレーニング:はしご型のトレーニング用具を地面に置くことによって、はしご型の内側に右足・左足・両足を踏み入れることができ、それらを組み合わせることで色々な動きができる。例:「右足・両足・左足・両足の順番」という規則を子ども達で作り、その規則通りに前に進む。 ②マーカーの使用:地面に印をつけることでそれを起点にけんけんぱをしたり飛び越えたり全身を思い切り使い体を動かす。 ③ミニコーンの使用:ミニコーンを目標にタッチしたり、コーンの周り回って折り返すなど動きに変化をつける。 ④ミニハードルの使用:ハードルをジャンプして飛び越えることで、力いっぱい体を動かし、自身の身体を使う楽しさを味わう。 フラフープ等の障害物を地面に置き、子ども達で自由にコースを作る。 ⑤上記①～④を組み合わせ、様々な条件を付けて多様な動きを体験する。 ・講師の指示により変わる動きを、ゲーム感覚で行うことにより、多様な動きを経験できる。 ・講師の否定をしない指導方針により、自ら体を動かす事を肯定的にとらえ、意欲的な態度や活発な体の動きを身に付けていく。 ・うまくできなかった場合は自ら考え、行動に移すことで課題を乗り越える力を身に付けていく。 ・うまくできた友達と喜びを共有し、また改善点を教えあったり意見交換をする事で、人間関係を深めていく。 ・また友達との交流の中で成功するイメージを言葉や動きにして伝えることで表現を豊かにする。
---------	---

事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) 今までに経験したことのない体の動かしかたに戸惑いながらも、考えながら、なんとかやりきろうという努力が感じられた。また、園児同士で教え合うことで、言葉の表現を学ぶことができたのではないかと。 (改善点) できないとあきらめてしまう様子もうかがえたので、そういった場合、段階的にステップアップできるような内容の運動が必要かもしれない。
	6 環境構成	園庭で行う。雨天時はホールで指導。 園庭では飛んだり跳ねたり走ったりと大きな動きが多くなるので、転んだ際の怪我防止のため、目立つ小石はあらかじめ排しておく。 休憩時には速やかに水分補給ができるように、水筒の置き場所を確保しておく。 特に夏場は熱中症予防のため、氷やタブレット、O.S.I.体を涼しくするきりふき。 こまめに休憩ができるよう、適切に温度設定をした部屋を、教職員がととのえておく。
計画時		
事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 本来、園児の怪我防止の為に、また工事期間中の安全面に配慮して、夏休み期間もしくは、冬休み期間に行うことを希望した。しかし、メンテナンス委託業者の取り組み可能期間が、職人の手配の都合で、3月末となった。 教職員がザルとシャベルを使い、小石除去を継続的に行っていたが、十分な効果を得ることが難しかった。時期は遅れてしまったが、メンテナンスができた。 メンテナンスができた為、今後は園児がより安全にこの事業を実施できる。 (効果) 広く見通しの良い園庭が当園の特徴の一つなので、それを有効活用できる。 なお、怪我や熱中症対策をおこなっていたおかげで大きな問題もなく事業を終えられた。 (改善点) 横転等による怪我防止のため、定期的に教職員で小石を排しているが時間の経過とともにどうしても増えてしまっていたのが、小石などの安全面が改善された。3月に行ったのは園庭の半分で、令和7年度に残り半分を行う予定。
7 期待される効果 児童の姿		取組を通じて期待される児童の姿や効果等 当園では「強く 明るく かしこい子」の育成を心がけています。 「6. 取組の内容」に記載の取り組みを通じて ①身体的な強さだけではなく、精神的な強さ(諦めない心・他者への思いやり)をもつこと。 (強い子) ②達成感や自己肯定感を高めることによって明るく意欲的で豊かな表現を身に着けること。(明るい子) ③自ら考え試行錯誤しながら課題の解決をめざす力を身に着けること。(かしこい子) の3点を期待しています。
	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) 今回の事業は、遊びの要素が大きかったためか、参加した園児たちは期待通りに自ら進んで取り組んでくれた。ラダートレーニングを使った規則遊びにおいては、話し合いをしながら規則を決めていく姿が多く見られた。また、フラフープなどの障害物を地面に置く場面では、遠くに置きたがる子もいれば、近くに置きたがる子もいる等、様々であったが、子ども達が自由にコースをつくることで、他者の思いや考えをお互いに認めあう姿が多く見られた。 (改善点) 回数を重ねるたびに、動きに慣れてしまっていてマンネリ化すること考えられるので、園児が飽きないような構成を考えることも必要と感じた。
8 効果検証 総括		事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて まず、参加園児に大きなケガがなく終えられたことはトレーニングの専門家を講師としたことによるものだと実感している。 本事業を通じて、体力の向上や自ら考えて動く事だけではなく、他者への思いやり(指示された動きができない子や転んでしまった子へのフォロー)や、複数人で相談しながら試行錯誤する共同作業の様子も窺えたことが何よりの成果と感じている。 今後も本事業のような、多角的な効果が見込める事業を考え実行していきたい。